

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873200780
法人名	社会福祉法人 寿山会
事業所名	グループホーム パラディ
所在地	今治市波方町樋口甲 1 2 0 番地 1
自己評価作成日	平成22年5月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念を大切に、利用者本位のサービスを提供できるよう取り組んでいます。</p> <p>医療と連携をとり、安全で安心して生活できるようにしています。</p> <p>地域の中で、地域密着型サービス事業所として地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。</p> <p>ご利用者・地域・医療・職員の絆を大切に、ご利用者の生活の質の向上に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>地域の資源や高齢者の状況が示された「多々良マップ」を作成された。近隣や知り合い、職員の自宅に咲いているあじさいの花を集めて、事業所をあじさいの花いっぱい飾り付け「あじさい祭り」を開催した際には、地区の独居老人と75歳以上の方に案内を配り、事業所で利用者とともに三味線演奏やフラダンスを楽しまれた。今後もマップを活用して地区の高齢者との交流を深めていき、集会所等も使用させていただき認知症や介護保険の勉強会等も行っていきたいと考えておられた。</p> <p>職員の提案で、利用者のお一人が編んだ毛糸たわしを福祉フォーラムのフリーマーケットで利用者とともに売り、ご本人も喜ばれた。利益で新しく毛糸を買われたようである。</p> <p>利用者にわかりやすい言葉を使用し、たとえば「ちょっと待ってね」でなく「5分待ってね」と具体的に伝えるようにされている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 花

記入者(管理者)

氏名 笠原 好美

評価完了日 平成22年 5月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は開設当初、経営者・スタッフで考えて作ったものであり、理念を具体的に行動指針とし表し、地域で暮らし続けることへの支援も掲げている。職員は理念が身近なものとして取り組めるように、介護計画作成時理念を意識し作成しており、日々実践している。 (外部評価) 事業所では「ひとり一人が、その人らしく尊厳のある暮らし」を理念に掲げて、日々の支援についての「行動指針」として「できる事を探そう、したいことを探そう、絆を大切にしよう、地域の中で暮らせる家づくり」と決めて、地域の方とのかかわりを大切に取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 関連施設で開催された夏祭りや福祉フォーラムで、フリーマーケット・介護相談・事業所見学を行い、地域の方々との交流を図れた。又、運営推進会の方たちを中心に「多々良マップ」を作成し、6月に開催を予定している「あじさい祭り」に独居老人を含めた地域の方々への参加を呼びかける様、現在準備中である。 (外部評価) 地域の資源や高齢者の状況が示された「多々良マップ」を作成された。近隣や知り合い、職員の自宅に咲いているあじさいの花を集めて、事業所をあじさいの花いっぱい飾り付け「あじさい祭り」を開催した際には、地区の独居老人と75歳以上の方に案内を配り、事業所で利用者とともに三味線演奏やフラダンスを楽しまれた。今後もマップを活用して地区の高齢者との交流を深めていき、集会所等も使用させていただき認知症や介護保険の勉強会等も行っていきたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 関連施設で11月に開催された福祉フォーラムで、事業所見学・介護相談の窓口を設けた。相談窓口には来られなかったが、見学には多数の方が参加され、利用者の方たちと共に昼食を摂られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 「多々良マップ」の作成・活用の方法・火災時の避難経路や方法等、評価への取り組み内容について、意見交換を行なった。又、職員の入退職や利用者の事故や苦情の報告を追加した。5月の避難訓練では、運営推進会の方々全員が参加され、消防署の方によるミニ防災講演会にも参加された。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、出席者から「多々良マップ」についての地域の情報をいただいたり、避難訓練等について非常口から避難する経路等についても意見をいただいた。地域の代表の方からお知り合いの方を紹介いただき、今後演劇を見せてもらうことになっていた。又、認知症や介護保険のことをよく知ってもらえるような取り組みをすすめていきたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 波方支所の福祉課の職員が、運営推進会議に毎回出席されており、事業所の実情や評価の取り組みについて、意見交換を行なっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方の出席をいただき、多々良マップの取組みを報告された。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 内玄関の施錠時間は、午後7:00から午前7:00と決めており、それ以外の時間は施錠せず、出入りが自由になっている。職員の勉強会のカリキュラムに取り上げており、理解に努めている。又、職員は「待って」等何気なく気づかないうちに身体拘束を行っていないか、スタッフ同士の気づきを検討している。</p> <p>(外部評価) 玄関は鍵をかけていない。職員は、利用者の行動を止めるような言葉を使わないように気を付けておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常的に虐待になっていないか、職員同士の気づきをヒヤリハットにあげ、些細なことも見逃さないようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 認知症実践者・リーダー研修の中にはカリキュラムとして入っている為、まずこの研修にいけるように調整している。今年度は職員勉強会のカリキュラムに取り上げている。現在活用している方はいないが、相談に来られた方で、必要とされた方には活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・・・契約書に沿って説明。家族の思い・将来の不安・要望など、時間をかけて説明・聞き取りしている。 解約時・・・解約になる前に十分な話し合いをしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年3回の家族会のうち、6月は家族だけの会を開催した。家族同士のなじみの関係があり、活発な意見交換が行なえた。11月の福祉フォーラムで開催したフリーマーケットには、家族の方々の協力を得られた。 (外部評価) 11月の福祉フォーラムのフリーマーケットには、出品物の提供や販売のお手伝いをいただいた。又、家族会を年に3回されており、10月は芋たき、3月はひな祭りの行事と兼ねて開催された。1回は、ご家族のみで話し合っていたくようにされたが、意見は少なかつたようである。	ご家族に事業所の取り組み等をさらに知っていただき、具体的なご意見をいただけるよう働きかけも工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 1回/月代表者は、管理者・ユニットリーダーを通して、職員の意見や提案を聞き検討し、運営に反映している。	
			(外部評価) 月に1回、ユニット会で職員の意見をユニットリーダーがまとめ、リーダー会で管理者に報告するようになっている。職員の提案で、利用者のお一人が編んだ毛糸たわしを福祉フォーラムのフリーマーケットで利用者もともに売り、ご本人も喜ばれた。利益で新しく毛糸を買われたようである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 2回/年職務に対する自己評価をし、管理者と面接の時間を設け、その自己評価を代表者も把握している。行事・勉強会などの時間外手当の支給等、やりがいをもち働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員勉強会は、月毎にカリキュラムを組み実施している。職員は本人の課題や目標を記入した復命書を月毎に管理者に提出している。外部研修は、職員の希望を聞きながら参加できるようにしている。又、代表者は、資格を取るための研修も奨励している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は、研修を通じて他の事業所の取り組みを聞き、学びや気づきを当事業所に取り入れている。又、地域の同業者とも相互訪問の活動を通じて、情報を交換し、サービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) こちらから足を運び、本人の意向をお聞きする。又は希望される方には来訪して頂き、実際に日常の様子を見て入居者と触れ合って頂き、本人自身から求めている事・不安な事等をよくお聞きし、家族との調整をしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス利用開始前に、あらかじめ家族の困っている事・不安な事・要望をお聞きし、利用開始からは面会時に情報を交換し合い、面会に来られない方には電話にて状況をお伝えし、信頼関係を築いている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に関連の施設・事業所・医療機関などの連携はとっており、必要に応じて調整はしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の生活歴を知り、各々お得意だった事を職員が共有しており、利用者から様々な生活の知恵を教われる様、そういった場面が多く持てるように、セッティングや声掛けに配慮している。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「きずなを大切にしよう」の行動指針の下、家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。手紙・電話・面会時に日頃の状態を報告するとともに、本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>他事業所のデイサービスに通われている幼馴染に会いに出かける、以前入居していた施設に出かける等、関係継続の支援に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者になじみのある方が共用の通所介護に来られる時には、一緒に過ごせるように配慮されている。以前買い物に行かれていたスーパーで買い物されたり、知人が通っている地域内のデイサービスに職員が付き添って会いに行かれることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席の配置や作業の分担等にさりげなく配慮している。気分や感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。コミュニケーションのとりづらいうも、こちらからコミュニケーションのきっかけ作りを行い、孤立された方はいない。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院され退居となった方のお見舞いに行ったり、利用者の手作りマスコットをプレゼントする等、関係性を大切にしている。必要に応じて、家族からの支援も受けている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人との日常の会話や、面会時のご家族との会話から、本人の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努め、職員は気づきを記録し、情報を共有している。行動指針である「できる事・したい事」を探り、介護計画に反映している。 (外部評価) 介護記録には、アセスメントしやすいように、職員が気付いたことを記入できるような欄を設けておられる。職員は、利用者との日々の会話の中で意向を聞き「洒落た店へ行きたい」と言われる方と喫茶店に出かけたり、ご家族から以前の好み等を聞き取って、ケアの参考にされている。ご本人の希望で宅配の牛乳を取っておられる方がいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との関わりや、ご家族をはじめ面会に来られた方からの情報をもとにこれまでの暮らしの把握に努め、生活歴やなじみを大切にしながら暮らしを援助している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し、行動や表情、小さな動作から感じ取り、その人全体の把握に努め、心身共に細心を配慮しつつ、生活のリズムをくずさないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者毎に職員の担当者を決めており、本人の思いや家族の要望を聞き出し、本人本位の支援が出来るよう検討し、介護計画を作成している。利用者の状況が変化した場合は、その都度見直している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々に担当職員を決めて、入居時、その後は1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月後と様子を見ながら介護計画の見直しを行うようになっている。月末には、担当職員が利用者個々のモニタリングを行い、ユニットのリーダー、ケアマネージャーに相談して、必要であれば見直しをされている。</p>	<p>管理者は「介護計画を作成時、現在の介護目標が抽象的なので、もっと短期目標を具体的な援助内容を書く形式に検討したい」と考えておられた。「その人らしい暮らし」の支援に向けて個々のアセスメントを十分に反映した計画の作成に取り組んで行かれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護者側の主観ではなく、事実を記録できるよう努めており、記録は「気づき」「対応」「結果」の項目に分け、言動を主に記入し、状況や背景がわかりやすい様に工夫している。又、体調面・精神面の変化が著しい時は、センター方式を活用し、現状の把握や原因の追求などに役立てている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の状況に応じて、通院や入院中の洗濯物等、必要な支援は柔軟に対応している。又、家族が宿泊する時は、食事の提供や入浴の声掛けをしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の図書館やスーパー・デイサービス・保育所等、地域資源を活用し、本人の楽しみを支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族の望むかかりつけ医を把握し、支援してい る。現在は全員が協力医にかかっており、2回/月 協 力医療機関による回診を実施している。協力医以外を 受診されるときは、ご家族が同行している。	
			月に2回協力病院の医師が往診に来てくれるようにな っており、利用者の体調がすぐれないような時には、FAXで主治医に状態を報告し、電話で相談し、 受診するかどうか決めるようにされている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			職場内に看護職員を2名配置しており、介護職員はか かわりの中での気づきを相談し、かかりつけ医へ報告・ 受診を行っている。休日や夜間の為の連絡経路図を作 成しており、適切な対応が出来るよう努めている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			利用者の入院時には職員が面会に行き、病院関係者や 家族と情報を交換し、ご本人が安心して過ごせるよう に努めている。又、早期退院にむけ、入院先のDr・ 家族・スタッフとの連携をとっている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			見取りの指針を作成し、契約時に家族に説明してい る。心身の状況の変化があった時は、早い時期から利 用者・家族・かかりつけ医と話し合い、手厚い医療行 為が必要となる直前まで対応している。	
			(外部評価)	
			入居時、事業所の「看とりの指針」をご家族に説明 し、同意を得ておられる。今までに看取りを経験され たことはないが、ご家族の中には「最期までパラディ で見て欲しい」と希望される方もある。現在、夜勤者 が事業所に1名で、職員は看取りには不安があるよう だ。	ご家族の不安や心配ごと等も聞き取りながら、終末期 のあり方等についても話し合うような機会を作ってみ てほしい。ご本人やご家族の意向をお聞きしたり、職 員の体制作りや知識や技術面についても勉強をされる 等、職員でも話し合ってみる機会にされてみてほし い。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による、救急手当てや蘇生術の研修を受講した。受講した職員による施設内研修を行なっている他、緊急時の対応を、職員勉強会のカリキュラムに取り上げている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練の内、1回は火災時の通報装置に電話番号を登録している近隣の方、運営推進会の方が参加されており、協力体制は築けている。又、非常口からの安全な避難については、運営推進会で話し合ったり、消防署の方に相談も行った。風水害時の対策マニュアルも作成しており、災害時の避難場所との契約を結んでいる。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。運営推進会議時に消防署の方から、防火についてお話をいただいたり、業者の方が来られて、夜間想定訓練を実施し、近所の方や地域の代表の方も参加された。緊急時の通報装置には、近所の方、運営推進委員の方、地域の消防団、近くの職員などが登録されており、いざという時には駆けつけてくれるようになっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや対応を心がけている。具体的に確認し合い、気づいた事は職員同士で共有している。	
			(外部評価) 他の利用者がおられる場所で、職員は利用者の名前を出さないような会話に配慮されている。職員は、耳が聞こえにくい利用者の方には耳元で声をかけておられた。利用者にわかりやすい言葉を使用し、たとえば「ちょっと待ってね」でなく「5分待ってね」と具体的に伝えるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の関わりから本人の思いや希望を聞きだし、支援を行っている。又、表出出来にくい方にもわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得していただけるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切に、その日の体調に配慮しながら、出来る限りご本人の希望に沿った暮らしが出来るように、できるだけ個性のある支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧やおしゃれは、個々の生活習慣に合わせた支援をしている。洋服は本人が選び、職員は、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。馴染みの理美容院に行かれる方はいないが、2ヶ月に1度の理容師のカットの時は、本人の意向に添えるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、旬の食材・地元の新鮮な魚を取り入れ、一週間毎の献立表を作成している。利用者個々の嫌いな食材を把握しており、他のもので対応している。又、職員は利用者と共に下ごしらえから調理・配膳・片付けまで楽しくおしゃべりしながら行っている。刺身作りや漬物作りが得意な利用者には、腕前を披露できる場面作りをしている。 (外部評価) 日常的な会話の中で利用者の好みや希望を聞き、栄養士が1週間の献立を立てるようになってきている。利用者の誕生日には、お寿司や焼き肉等、ご本人の希望を採り入れた献立にしている。調査訪問時、職員は利用者とは話をしながら同じテーブルで同じ食事をされていた。利用者が魚の骨取り等、下ごしらえをされたり、食器洗い等の後片付けを職員と一緒にされている様子がうかがえた。利用者が漬けたなすの漬物が食卓に上っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は水分量・食事量の把握をしており、状態に応じて支援の方法を検討し、個別の記入シートを作成し、1日を通して確保できるようにしている。個別に主治医より高カロリー補食品を出してもらっている方もいるが、これだけに頼らず、嗜好品や食べやすいものを出すようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアはできており、利用者によっては、スポンジを使用するなど、食べ続ける事が出来るよう口腔ケアを行っている。汚れや臭いが生じないように、1回/週は、入れ歯洗浄剤にて対応している。又、口腔状態を把握し、歯科受診もやっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 職員は一人一人の排泄のパターンを把握し、本人の自尊心を大切に、さりげなく声かけを行っている。又、排泄のタイミングを表情・言動から感じ取ることで、排泄の自立にむけた支援を行っている。日中オムツを使用している人はいない。 (外部評価) 排泄記録等で一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけてトイレに誘導されている。利用者が独り言を言っていたり奇声を上げたり等、落ち着かない態度等の言動から排便のサインをキャッチし誘導する等、排泄支援されている。便秘になると帰宅願望が強くなる利用者は、牛乳を飲むと、便秘が解消されることに職員が気付かれケアに採り入れておられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 安易に便秘薬に頼るのではなく、ヨーグルト・牛乳の提供や散歩に誘う等、快適な排便に繋がるよう工夫はしているが、服薬しないと排便に繋がらない方もおられる。服薬は最低限に出来るように医療と連携を取り、調整を行なっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯は概ね午後となっているが、一人ひとりが希望する日・時間に入浴が可能である。気の合う利用者同士の入浴の支援も行っている。 (外部評価) 一番風呂を希望される方等、個々の希望を採り入れながら入浴の支援をされている。ほとんどの利用者が午後からの入浴を希望されるようである。気の合う人同士で入浴されることもある。入浴を嫌がる方には、外出の後に入浴をすすめたり、おやつの後等に誘う等、誘い方等も工夫されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活のリズムを整えるよう、なるべく日中の活動を促しており、一人一人のその日の体調に合わせて、休息をとって頂いている。又、眠剤を飲まれている方には、睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認し、医療に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて日常的に確認しており、処方の変更になったり、医療的な記録は色を変えて記入している。又、症状・処方の変化・変更は口頭の申し送りや連絡帳で共有する。又、薬の効果・副作用・相乗効果などは医師・薬剤師から説明を受け、情報共有できている。薬の処方や用量が変更されたり、状態の変化が見られるときは、状況の記録をとり医療に繋げている。詳細を家族に報告している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴を本人や家族から聞きだし、生活の中で力を発揮できる場面を作り、感謝の言葉を伝える事で、張り合いや喜びを感じて頂けるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事以外にも、ドライブ・喫茶・買い物等、個別での外出支援を行っている。又、家族とご自宅や食事に出かけることもある。家族と相談しながら、年1回、日帰り旅行にも出かけている。	
			(外部評価) 近くのスーパーへ日用品やおやつを買いに行かれたり、共用の通所介護の方の送迎と一緒にいられることもある。月に1回、法人内の介護施設の「法話会」に行くことを楽しみにされている方もある。昨年11月には、ご家族も全員参加いただき、糸山公園へ日帰り旅行され、ご家族とともに来島海峡大橋を見物されたり昼食を一緒に食べて楽しい時を過ごされた。ラッキョウを漬けるため明日材料を買いに行く予定になっている方もおられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の了解の下に本人が自由に使えるように、小口で出したり預ったりしている。本人がお金を自己管理している方もおられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけられる。手紙は年賀状・暑中見舞いを書く事で、絆を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ内と食堂に遮光カーテンを設置し、光や温度の不快に配慮をした。玄関・居間・食堂には季節の花を飾り、壁には利用者の作品や写真を掲示しており、それについて回想し、話し、思い出すことが安心につながっている。中庭には、自由に出ることが出来、洗濯物を干したり、草花を育てたり、日光浴や散歩をされる等、憩いの場になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、利用者が生けた生花が飾られていた。日差しがきつい場所にはカーテンをかけておられた。中庭は両ユニットの居間から出入りできるようになっており、昼食後に散歩されたり、体操をされる方、洗濯物を干す方の姿がつかえた。居間のソファに腰掛けて読書をされる利用者もあり、玄関先のプランターで利用者がミニトマトを育てておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの関係性を把握しており、ソファやイスの配置に気を配り、心地よく過ごして頂ける様、共用の空間作りにも工夫している。中庭や玄関の外にはベンチを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースがある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>寝具やタンス・テレビ・仏壇の他、ご家族の写真や、お気に入りの人形や時計を持ってこられている。又、季節の花をご自分で生け飾られたり、居心地の良い環境で過ごせるよう工夫している。遠方から来られた家族は居室に泊まる事も出来る。</p> <p>(外部評価)</p> <p>壁にお孫さんの写真を貼っておられたり、お気に入りのぬいぐるみを持ち込まれたりしている。ご自分で布団の上げ下ろしをされる方が部屋の掃除等もされている。夫の位牌に似せた置物と写真をたんすの上に置き、毎日話しかけておられる方もいる。ご自分の洗濯物を干しておられるお部屋もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室内は、一人ひとりの身体機能を把握し家具を配置しており、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。又、職員は混乱や失敗を防ぎ、自立した生活が出来様に気づきを検討している。</p>	